

面接過程に関する研究(1)

—— 面接者の発話分析 ——

富安玲子

1. 問題

教員免許法の改訂により、履修が必須となった生徒指導に関する科目の中に教育相談が含められることになるなど、カウンセリングに関する関心が高まっているが、教職課程においてこの分野も担当する立場からも、教員を志す学生たちに対して、カウンセリング・マインドをもった教師として育ててほしい願いをもっている。Ivey, A. E. & Authier, J. (1978) の述べるように「教育を相互通行のものと考え、教師は子どもをよく聴くという方法を学ばなければならない」ということが、カウンセリング・マインドの基本として考えることができよう。そのための指導・訓練の有効な方法のひとつとして、マイクロカウンセリングを挙げることができる。

マイクロカウンセリングは、Ivey, A. E. によって提唱されたもので、カウンセリングや面接を効果的に行なうことができるような組織的訓練法である。そして、さまざまなカウンセリング技法に共通する技法をまとめ、それらを整理した階層表に従ってひとつひとつ段階を踏んで習得できるように構造化されているものである (Ivey, A. E. & Authier, J. 1978)。マイクロカウンセリングに関する研究については玉瀬・田中 (1988) によって、その動向がまとめられており、マイクロカウンセリング技法の有効性、マイクロカウンセリングの要素としての教示、モデリング、練習、フィードバックなどのそれぞれの効果、他の技法との比較、スーパーバイザーの効果、般化効果などの問題が取り上げられ、検討が行われてきている。その結果、全体としてのマイクロ技法の有効性は認めうるとしても、個々の要因については、まだ十分研究が蓄積されているとはいえない状態にあること、それらのほとんどの研究では、実験での実質的訓練は10時間以内で行われており、このことは習得した技法の維持・発展の問題とも関連して、検討を要する問題であること、更に、実験の効果を確かめるための測定材料の開発の必要性などが指摘されている。

このような問題点の検討を今後に残してはいるが、マイクロカウンセリングは階層表に整理されているひとつひとつの技法の操作的定義がはっきりなされているために、具体的行動と結びつき、習得を容易にしていることや、習得の方法についても、教授法が多様性に富み、概念学習と体験学習とがバランスが取れているなどの特長をもつことから、さまざまな形で活用がなされている。筆者も、関わっている電話育児相談のボランティア相談員の研修に、諸々の制

約の関係もあって一部ではあるが、取り入れている。そして、今後は、前述の教育相談教育の中で活用することを考えているところである。

ところで、マイクロカウンセリング技法として位置づけられている中で、特に初歩的とされている技法を、人は現実の面接場面でどの程度使っているのであろうか。訓練を受けない人たちでも、相手を聴くこと（傾聴）の重要性には気付いているであろうし、意識的に相手を聴く技法を用いていなくても、結果的には、マイクロカウンセリング技法に合致するテクニックを用いて対応しているということはあるであろう。また、多少の訓練を受けた人や現実に関与している人は、相手を聴く（傾聴）技法を日常のどんな面接の中でも生かして用いることができるのであろうか。

このような問題意識のもとに、本研究では、未知で初対面の被面接者との面接において、未訓練者と相談経験者とは、面接者としての発話がどのように異なるのかについて、マイクロカウンセリング技法による質問、はげまし、および積極技法の自己開示等の観点から吟味することを目的としたい。

2. 方法

対象者

面接者「学生群」：未訓練・未経験者として大学2年生（女性）10名、一般心理学を受講し、実験に協力を申し出た文学部生。

「相談員群」：経験者として、公的機関の電話育児相談のボランティアの相談員（女性）10名、相談員となるために、約15時間のカウンセリング研修を受け、その後も研修の機会をもちながら、相談員として2年以上の経験をもつ。平均年齢約43歳

被面接者 Aさん。私立女子大学文学部卒業後、約2年間会社員として勤務した後、結婚し、専業主婦としての生活を始めて3ヶ月の24歳の女性。夫と二人家族。

手続き

面接者はひとりずつ、Aさんと10分間の面接を行ない、その経過は録音された。Aさんについての子備知識は全く与えられず、面接時に初対面をした。面接者に対する教示は次のとおりである。「この方はどんな方でしょうか。どんなことを聞いてもかまいませんので、この方を知るようにして下さい。10分間差し上げますので、自由にお話をして下さい。この10分間で、この方について知り得たことを、面接が済んでから別室でこの紙に書いて報告して下さい。面接中、メモは取らないようにお願いします。」

被面接者Aさんには予め、大学生10名と相談員10名、合計20名と10分間ずつ面接すること、面接者はAさんのことを知ろうとして質問してくるであろうので、質問について答えられることは答えてほしいことのみを依頼した。10分間のタイマー操作および録音操作はAさんが行った。Aさんについての報告書の課題は面接への動機づけのためとした。

面接日は1989年6月から7月にかけての5日間で、一日に面接者2名から6名の面接が行われた。面接場所は、学生群については、当該大学学生相談室、相談員群については、当該公的機関面談室で、面接者と被面接者Aさんの2人だけで面接は行われた。

分析方法

それぞれの10分間の面接場面の逐語録によって面接者の発話を次のように分析した。

面接者の発話を文単位に区切り、全発話を分析の対象にした。分類カテゴリーは、マイクロカウンセリング技法の分類に準じ、Ivey, A. E. らの定義に拠った。

分類カテゴリー

①質問：会話への導入

①-1 開かれた質問：What, How, Why, Could you……などで始まる質問で、短かいことばでは答えられず、具体的な状況をひき出すのに役立つ、感情面にも注意を集中することに役立つもの。

①-2 閉ざされた質問：通常は数語の返答か、「はい」「いいえ」などで答えることができるもので、感情に対立するものとしての事実の内容が強調される。

②はげまし：会話をさらに促す。

相づちとして「そうですか」「よかったですね」「ありますよね」など。繰り返して、単純に1語か2語の繰り返しや、話した最後の数語をそっくり返す。

但し、はげましには非言語的な最小限度のはげましや、「ええ」「はい」などの連発による言語的はげましもあるが、ビデオテープによる追跡は行わなかったことによって、非言語的はげましは把握できず、加えて、多分に身体言語の意味をもつ「ええ」「はい」といった瞬時的発声のはげましも、オーディオのみの録音では把握追跡が不可能だったことから、ここでは、「ああそうですか」などの明白な言語的はげましをカウントの対象にした。

③言いかえ：相手が言ったことを正確に聴き、それをまた返す。

相手のもっとも重要な語句や本質をとらえて濃縮し、明確にした発言。相手の発言を整理。

④要約：語られたことの重要部分を繰り返して、短縮し、具体化する。「～ということです」など。

⑤感情の反映：表現されている感情に気づき、それに反応する。「～と思っているのね」「～と感じているようですね」「あなたは嬉しいのね」など。

⑥自己開示：面接者の考えや感じを伝える。

「私は～でした」「私は～と思う」「と感じています」「そういうのが私は好きです」「私も同じようです」など。

⑦助言：面接者の考えや情報を助言的に伝える。

「～した方がいいですよ」「～して下さい」など。

⑧その他：社交辞令として「どうぞよろしく」「ごくろうさまです」「ありがとうございました」など。説明や言いわけとして「こんなこと聞いてごめんなさい」「何をきこうかしら、困

たナ」など。

以上のカテゴリーについて、二人の評定者が独立に分類し、コーエンの一致係数は $\kappa=0.73$ が得られた。不一致の場合は、協議の上、分類した。

3. 結果と考察

学生群、相談員群それぞれの分類カテゴリー別の発話頻度の平均は TABLE 1 に、また、総発話数に対する割合は TABLE 2 に示すとおりである。

TABLE 1 発話分析(1) ～両群の発話頻度の平均の比較～

分類カテゴリー	学 生 群	相 談 員 群	検 定
	平均 (S D)	平均 (S D)	
質 問	18.4 (5.66)	15.9 (7.88)	}
〔開かれた質問	9.9 (3.56)	8.3 (4.05)	
〔閉ざされた質問	8.5 (3.67)	7.6 (4.74)	
はげまし	4.9 (3.75)	12.0 (6.87)	t = 2.72*
言いかえ	2.8 (1.94)	5.5 (3.98)	t = 2.39*
要 約	0.3 (0.46)	0.5 (0.67)	
感情の反映	0.4 (0.66)	1.9 (1.76)	t = 2.22†
自己開示	4.2 (4.71)	9.9 (6.11)	
助 言	0.0	1.0 (2.05)	t = 2.49*
そ の 他	1.3 (1.27)	2.0 (0.77)	
計	32.3(12.32)	48.7(15.47)	

* p < 0.05 † p < 0.1

TABLE 2 発話分析(2) ～両群のカテゴリー別発話比率の比較～

分類カテゴリー	学 生 群 頻 度 (%)	相 談 員 群 頻 度 (%)	検 定
質 問	184 (57.0)	159 (32.6)	Z = 3.45**
〔開かれた質問	99 (30.7)	83 (17.0)	
〔閉じられた質問	85 (26.3)	76 (15.6)	
はげまし	49 (15.2)	120 (24.7)	Z = 3.24**
言いかえ	28 (8.7)	55 (11.3)	
要 約	3 (0.9)	5 (1.0)	Z = 2.31*
感情の反映	4 (1.2)	19 (3.9)	
自己開示	42 (13.0)	99 (20.3)	Z = 2.72**
助 言	0 (0)	10 (2.1)	
そ の 他	13 (4.0)	20 (4.1)	
計	323 (100.0)	487 (100.0)	

* p < 0.05 ** p < 0.01

10分間の面接において、まず総発話数の平均は相談員群の方が48.7回で、学生群の32.3回より有意に多くなっている。「質問」については学生群は平均18.4回、相談員群は平均15.9回行っており、カテゴリ別の頻度としては両群ともに最も多く現れている。「質問」は面接を進行させ、情報収集の役割をもつために、この実験のように、初対面で、しかも、カウンセリングや援助面接ではなく、むしろ情報収集を促す状況において、頻度が高くなるのは当然のことと言えよう。両群の頻度には有意差が認められないが、TABLE 2 に示される発話全体に対する「質問」の割合を見ると、両群の特徴の差が明らかになってくる。即ち、学生群では全体の発話の中で「質問」が57%を占め、相談員群の32.6%よりも有意に大きなウエイトを占めている。「質問」を開かれた質問と閉ざされた質問に分類した結果は、両群ともに、その現われ方に差は認められなかった。マイクロカウンセリングでは、「なに」「どのように」「～について話してくださいませんか」の形の開かれた質問は、有能な援助者になるための基本的要素のひとつとして位置づけられており、技法訓練では、この開かれた質問を多く使えるようになることが目標のひとつになっている。その意味から、相談経験のない学生群よりも相談員群に開かれた質問の比率の高さが予想されたが、差は認められなかった。しかし、このことは「開かれた質問と閉ざされた質問がバランスがとれているときは、面接の初期の段階にあることを意味している」との Ivey, A. E. (1972) の指摘のとおり、初対面の10分間の面接という状況にあっては、二種の質問の差が認められないことは首肯できることである。

会話をさらに促す役割を果す「はげまし」については、相談員群が学生群よりも有意に多く、平均12回の明白な言語的はげましを行ない、発話全体の25%を示している。「はげまし」は、相手の話を聴いていることのサインであり、そのサインを示されることによって人は話を続けようと思うであろう。そのサインは非言語的・言語的さまざまなレベルで行われる。上体を相手の方に傾けたり、うなづいたり、短く「うん」「ええ」「はい」といった瞬時的な発声もその役割を果している。相手の話にうなづくことの効果をうなづきの有無と発言量との関係で調べた Matarazzo, J. D. ら (1964) によれば、うなづきが相手の発言量を約1.5倍増加させるということである。このような効果から考えて、非言語的はげましや瞬時的発声によるはげましも含めることが重要であるが、すでに、分類カテゴリの説明で述べたとおり、ここでは、明確な言語的なはげましに限定した。したがって、被面接者の話を聴いているというサインを明白な言語的な応答で返すことについては、相談員群が有意に多いという結果が示された。しかし、これが少ないことが必ずしも話を聴いていないことを示すものではなく、また、この結果から、非言語的はげましの多少にまでは言及できないのは当然のことである。

被面接者の語ったことばの一語または二語をそのまま繰り返したり、「そうですか」などの相づちをうったりする「はげまし」に比して、「言いかえ」は相手が語ったことを聴き、正確に相手に返すこと、即ち、聴き取った内容を相手に示すものである。このカテゴリの発話は、両群間に有意差は認められないが、相談員群にやや多い傾向がうかがわれる。また、「感情の反映」は、相手の感情に隠された情動を理解したことを相手に伝えることを意味しており、援助面接では、相手の情動の世界を正確に感じとること、即ち、共感をもっとも基本となること

である。ここに分類される発話数は両群ともに少ないが、それでも有意差をもって、相談員群に多く出現している。

これらの、いわば、被面接者の反応に対する応答という形をとる「はげまし」「言いかえ」「要約」「感情の反映」のカテゴリーをまとめてみると、相談員群では40.9%、学生群では26%となり、相談員群では「質問」という面接者リードの発話よりも、相手の発話を受けとめる形での発話が多い傾向を示している。

面接は、人と人との関係の中で成り立ち、お互いに影響を受け合うことは言うまでもないことである。より積極的にかかわろうとした場合、面接者も自分を語り、「自己開示」によって、面接を両者が共に共有するという実感を分かちもつことが可能となり、面接の有効性を高めてくれることにもなるのである。(Ivey, A. E., 1983) その「自己開示」も相談員群が多くなっており、平均10回、発話全体の20%を示している。

このように、TABLE 2 に示されたカテゴリー別比率の出現のしかたには、両群間に有意差が認められ ($\chi^2=52.513$, $df=7$, $P<0.01$), 両群の発話のしかたにはそれぞれ特徴をもつことが示されている。

以上、カテゴリー別に両群の傾向を見たが、これらのカテゴリーを更に次のようにまとめて考察を進めてみたい。

「開かれた質問」と「閉じられた質問」とを〈質問〉に、「はげまし」「言いかえ」「要約」「感情の反映」を〈はげまし〉に、そして「自己開示」「助言」を〈自己開示〉として、面接者の発話をこの3つの大カテゴリーにまとめ直し、各人についてその比率を求めた上で、その出現のしかたによって5つのタイプを設定した。

〈質問〉優位型とは〈質問〉の占める割合が、〈はげまし〉〈自己開示〉の比率に比して2倍以上を示しているタイプで、〈はげまし〉優位型とは、〈はげまし〉の占める割合が他の2つに比して2倍近く出現しているタイプである。〈自己開示〉が他の比率に比して2倍以上占めるのが〈自己開示〉優位型、〈質問〉と〈はげまし〉がほぼ等率で〈自己開示〉が少ないものを〈質問〉〈はげまし〉型、および、3つの大カテゴリーがほぼ同率で現われるものを〈質問〉〈はげまし〉〈自己開示〉型とした。

TABLE 3 に見られるように、「質問優位型」には、学生群のみで10名中7名が属し、「はげまし優位型」には相談員群のみ4名が属している。それぞれの代表例を示すと次のようになる。

タイプ	学生群	相談員群	計
〈質問〉優位型	7	0	7
〈はげまし〉優位型	0	4	4
〈質問〉〈はげまし〉型	1	2	3
〈自己開示〉優位型	0	1	1
〈質問〉〈はげまし〉〈自己開示〉型	2	3	5
計	10	10	20

〈質問〉優位型の場合は

①「何かご趣味とかおありますか」——(応答)——②「学生時代とか何かスポーツやっていたらしゃったんですか」——(応答)——③「じゃ失礼ですけど、大学の方で文学部とかいろいろありますけど、何学部で？」——(応答)——④「ああ文学部で」

のような経過を示す。④のように被面接者の応答を繰り返して「ああ文学部で」という「はげまし」も適度に用いながらも、質問による面接者のリードが優位となって面接が進行していき、学生群に多い傾向を示している。

〈はげまし〉優位型は、

①「じゃあ、最近悲しかったことってありますか」——(応答)——②「ああそうですか。今はもう落ち着いていらっしゃるんですか」——(応答)——③「おばあちゃんも高齢で？」——(応答)——④「おばあちゃん子でいらしたのね」——(応答)——⑤「ずっと一緒に住んでいらしたの？」——(応答)——⑥「ああそうですか、近くにいらしてね、ああそうですか、じゃあ、大事なおばあちゃんなのね。」——(応答)——⑦「じゃあ、おばあちゃん、いい方だったんですね。」——(応答)——⑧「ああそうですか。じゃ、おばあちゃんみたいな方に育てていただくとよいですね」——(応答)——⑨「ああ、いろんな世代の考え方もわかるっていう…」

のような経過で、面接者が質問によって話題をリードしながらも、④の「言いかえ」、⑥の「はげまし」「言いかえ」「感情の反映」などのように、被面接者の語ることばや、その内容に対して面接者が応じ、返していくという形で面接が進行していき、相談員群に見られる傾向を示す。

以上のように、カウンセリングの技法について未訓練の学生群と相談のための研修を受け、現にその任に当たっている相談員群とはかなり異なった面接経過を示しているといえるであろう。しかし、面接経過の分析は、オーディオのみに頼ったため、非言語的レベルでの反応をとらえることができず、その点で、Ivey, A. E.の述べる正確な意味での「はげまし」とは言えない点が再吟味の必要性を残している。特に未訓練の学生群でも、言語的レベルでの相づち、繰り返しなどは現われなくても、相手に視点を向け、うなづくなどの〈かかわり行動〉のいくつかを発していたことも十分考えられるからである。また、被面接者の属性が両群の面接経過の差に影響したことも考えられる。本報告では、面接における内容の分析までは言及しなかったが、学生群にとっては先輩に当たる被面接者が、導かれた話題によっては、後輩たちへの生き方のメッセージとして語りたい思いにかられた様子がうかがわれ、また、相談員群が家族的背景や結婚動機等を尋ねる中で、自己開示を多くしているのも、自分の子どもの年齢に近い被面接者ということが影響していることも考えられる。ひとりの被面接者に対する面接という統制条件のもとでは、問題点も残るが、話題との関係や被面接者の発話時間との関係からの分析も必要であろう。

ここに見られた両群の差は、かなり大きな個人差を越えて認められたことではあるが、必ずしも、訓練の有無と対応関係にあるとは言えない。しかし、このような特殊な面接場面においても、相手を聴くことを心がけている相談員たちのテクニックや姿勢は生かされていることの確認と共に、今後の指導・訓練の際の基礎となる学生群の対応姿勢が把握でき、よりよい傾聴への具体的訓練の可能性が示唆されたと考えられる。

引用文献・参考文献

- アイビー, A. E. (福原真知子, 相山喜代子, 国分久子, 楡木満生訳編) 1985 マイクロカウンセリング 川島書店
- Ivey, A. E. 1983 *Intentional Interviewing and counseling*. Brooks/cole Publishing Company.
- Ivey, A. E. & Authier, J. 1978 *Microcounseling*. Thomas.
- Ivey, A. E., Glukstern, N. B. & Ivey, M. B. 1982 *Basic Attending Skills*. Microtraing Associates.
- Matarazzo, J. D., Saslow, G., Wiens, A. N., Weitman, M. & Allen, B. V. 1964 Interviewer Head Nodding and Interviewee Speech Durations. *Psychotherapy: Theory, Research and Practie*, 1, 54-63.
- 玉瀬耕治・田中寛二 1988 マイクロカウンセリングに関する研究 奈良教育大学教育研究所紀要, 24, 53-66.

(付記) 実験に際して快く被面接者の役割を引き受けて下さったAさん, 面接者として進んで協力を申し出て下さった学生の皆さん, 勉強にもなるので喜んで, と参加して下さいました相談員の皆さん, テープ起こしを正確に丁寧にして下さいましたTさんに心から感謝致します。

(資料) 10分間の面接経過の例 (その1-学生群Xさん-) (その2-相談員群Yさん-)

(その1)

面接者 (学生群Xさん)

被面接者 (Aさん)

おいくつですか

24歳

もちろん学生さんで

いえ違います

じゃたとえば, 結婚とかそういうことってどういうふうに思いますか

ええ結婚しています

ああそうなんですか あらいやだ

いいですよ結婚のことに関しても

おいくつ頃結婚なさったんですか

ことしの4月頃

ああそうですか, ああそうかあの何か動物飼って

今は飼ってません

いらっしゃるんですか

じゃあかつては何か

そうですね, カナリアとか家で飼ってたりとか, 池に鯉はいますけど

じゃあ動物はお嫌いではないんですね

あんまり何か自分で世話っていうのはしたことがないからなんですけど, 見る感じでは可愛いいなあとか思う感じで, すごく嫌い, もういやっていう感じではないんですけど

はあ, ああどうしよう

お子さんとか, まだいらっしゃらないと思うんですけど

はい

どういう感じで

そうですね, 欲しいとは思ってるんですけどでもまだ自分が子どもって感じなんで, まだ何んていうか結婚して二人の生活というのもの, 少しはできた頃なんですけど, なんかやっつけいけるのかなあとか, 不安とかはあるんですけど, でもやっぱ

じゃあの今専業主婦っていうか
ずっと家にいらっしゃるんですね
ほかご趣味とかおありですか

ああ

はあ
学生時代とか何かスポーツやっていたら
いらっしゃいますか

じゃ失礼ですけど、大学の方で文学部とかいろいろ
ありますけど何学部で
ああ文学部で
じゃあご家族はあの何人なんですか、あの元の方
ええ
ああ一人子ですか ああ
で、ずっと三人でずっと
ああ絵とかそんなの興味ないですか

はあ

りそうですね、子ども生んでみたいし、あとまあ
育てるのも大変だけど、それなりに自分、私だけ
じゃあなくて、まあやっぱり二人で育てていけな
いなあって云うか、そのよくありますよね子ども
のことはまかせたとか、ああいうのって抵抗ある
からやっぱり、いろいろ、よく相談しながら、で
きたら育てていきたいと思いますね

はい

はい

趣味は結構いろいろやりたいとか思ったりしてい
るんだけど、趣味っていうとどうかな、スポーツ
とかもすごく好きだし、見るのも好きだけどやる
方も好きで、時間とかなのでなかなかできない
んですけど

あと本とかも沢山読んでみたいし、なんかもっと
勉強の方もして見たいと思ったり、お茶とお花と
かは学生時代からずっと習ったりしてたんだけ
ど、なかなかそれを続けるってわけにいかなくっ
て、やめちゃったんだけど、結婚したんでこれ
から機会があれば少しづつ、その方が続けられれ
ばやりたいと思っています

テニスも少クラブでやったりとか、あとはどう
いうんだろう、なかなか泳ぎに行ったりとかした
んだけどどういう訳か、夏休みとかに機会がなく
て、行けなかったんだけどこれくらいですかね
スポーツって

文学部

国文

結婚する前ですか

三人なんです

はい

そうです

いえすごく好きです 美術展とかいろいろあると
日展とか毎年行ったりして、あと描く方も嫌い
じゃないんですけどなかなかね、一回描くという
のも大ごとなんで、なんなんですけど
これから旅行とか行きたいので、その旅行先とか
でスケッチしたいと思ったりしています

また、結構、名古屋はいろいろ来ますので、そう
いう展覧会とかが、行ける時に行ってみたいと思
います

はあ

はあ じゃあ今までにどういうとこ旅行とか、いろいろなさったと思うんですけど、どんな

じゃあたとえばどこか場所を訪ねる時に、静かなところとか、にぎやかなところとか、どちらの方が好きですか

はあ、そうですね

じゃここに絵があるんだけどこういう絵を見てどう思われますか

はあ

はあ

はあ、じゃあ例えば全然また違うんですけど、東京と京都があったら、どちらの方へ行きたいと思えますか

ううん そうですね

じゃあ、あの、今名古屋にずっと住んでいらっしゃるんでしょう、ずっと前ぐらいも

ああでも愛知県ですね

ああそうか

東京とかは行きたいなあとかは

はあ

あのじゃあ学生時代のことなんですけどたとえば何時までに帰っていらっしゃいとか、そういう門限とか家の門限とか

あんまり、どこがいいとか専門的なことは、わからないけど、見るのってすごくやっぱりいいことだと思うんですけど

そうですね、一番心に残っているのは、3年の時に春にですけど、ヨーロッパに8ヶ国ぐらい21日間かな、行ったんですけど、それが一番大きい旅行で、あとはその遠出っていうのは、しなかったような気がするんですが、ちょこちょこそれこそ、その、人が多い時はさけて春秋なんかには適当に休みを学生の頃なんかとって皆で行ったりとか

どっちかって云うと静かなところ

そうですね、私は岩崎ちひろさんの絵はすごく好きなんです

で便箋なんか一ぱい持ってて、なんかやっぱり子どもの絵とかあたたかい感じするんだけど、やさしそうだし、目とか表情とか

普通、なんていうか油絵とかもあれだけど、水彩画の方が好きなんです、私は

やっぱり子どもができれば、一緒に描いてみたいなあって気がするんですけどね

京都ですね

はい

いえ結婚前は四日市で

三重県

愛知県近辺でね

そうですね大学の時に東京も京都も受けたんですけど、結局通える範囲でと云うことで、でも親としては東京へ出たくなかったみたいだし、

あとまた自分でも、一日や二日はがまんできても、住むことはできない土地だろうなあって云うか、自分にとってはね

そういう意味では奈良とか京都とかには行きたかったんで、もし許されれば学生時代はそういうところで過したかったという気はありますけど、

何時とか決めてなかったような気がしますけど自

うーん	<p>分が結構、早く帰りたいっていうか、遅く帰って又それからいろいろね、明日の用意とか云うのがあまり好きじゃなくて、いつも余裕を持っていたタイプなので、例えば電車に乗ってというのではなくて、走って乗ってと云うのではなく、こう電車が来るのを待ってるっていうのか、そういう感じなんで</p>
ああ満足なさってたんですね	<p>すべてに早目早目っていうのがやっぱり環境がそうしていたと思うんですけど、まあ、コンサートとかコンパ、そういう時でも早目に帰ったりして、大学が名古屋の方だったので四日市まで帰るのに一時間はかかるので、そういう意味で学校と家とを往復してたと云うか、わりと早く帰ったんで、門限とかで叱られたりとかは、あんまり記憶にないけど</p>
わかりました はい	<p>そうですね、あんまりそのところでは反発しなかったような気がしますね</p>
ありがとうございました	<p>どうもありがとうございました</p>

(その2)	面接者(相談員群Yさん)	被面接者(Aさん)
<p>何からうかがったらいいかしら じゃあ最近楽しかったことって何かありますか</p>	<p>ああ、この前の土曜日と日曜日に奈良に行ってきたんですけど、あいにく日曜日の日は雨だったんですけど、車でいったものですから、雨にけむる柳生の里とかがとてもきれいで、それが一番今最近で楽しかったことです</p>	
<p>ああそうですか えーと奈良は何か興味があって そんなんか人気があるんだそうですけれど</p>	<p>ああそうですか いえ、あのもともと奈良も京都も好きでフラっとただ単にというか、行ってみたいというか、時間があつていこうかみたいな感じで行ったんですけど、今回は</p>	
<p>何か目的があつていらしたんですか 遺跡を見る とか</p>	<p>いつもそうですね、あのまま1年位前はシルクロード博があつたときは母とかと一緒に رفتりしたんですけど</p>	
ええ	<p>そうでね計画を立ててというよりは、フラっとどこということもなく歩いてっていう感じの方が多</p>	
ええ		

ああそうですか

じゃあそうすると一人でお出かけになることが多いんですか、やっぱりお友だちをさそって

ええ

一方的にきくって難しいですね

じゃあ、最近悲しかったことってありますか

ええ

ええ

ええ

ああそうですか 今はもう落ち着いていらっしゃるんですか

おばあちゃんも高齢で

ええ

ええ

おばあちゃん子でいらしたのね

ずっと一緒に住んでいらしたの

ええ

ええ ああ

ああそうですか 近くにいらして…

ああそうですか じゃあ大事なおばあちゃんだから

じゃあおばあちゃんいい方だったんですね

ああそうですか

じゃあおばあちゃんみたいな方に育てていただくといいですね

ええ

いような気もするんですけど

そうですね、学生の頃は友達と一緒に رفتったりとかあと京都とかは小さい頃から夏休みとか春休みとか家族で رفتったりとかしてたんですけど

何でもきいて下さい

ちょっと祖母が病気で倒れてほんとに危いってところまでいって、今はちょっともちなおして、おかげさまで元気になりつつあるんですけど、身内がそういう風な状態になったっていうのは始めてで、しかも私はおばあちゃん子だったのであのほんとにどうしようというか、もし、いなくなっちゃったりするようなことがあったりしたら、気が狂うんじゃないかなと思って、毎日泣いたりなんかしてすごく悲しいというよりも、何ていうのか、ちょっと表現できない位こう動揺していた時なんかほんとに六月はじめ位から続いていたので割と大変だったというか

ええ もう

85歳でほんとに奇跡的というかいう感じなんで、今は医学が進歩してすごいなあと改めて思ったりなんかしています

はい

いえ、同居はしてなかったんですが、たまたま両親が共働きでしたので、小さい頃からずっとおばあちゃんの家から学校へ通ってということで、ほんとに両親といる時間よりも祖母と一緒にいる時間の方が多かったみたいな

はい

ええやっぱり明治の人だけあって、芯が強くてなかなかきびしかったですけど

そうですねやっぱり今核家族っていうか、二人で育てることがなかなかでも大変だと思うんですけど

ええ

ああいろんな世代の考え方もわかるっていう——

ええ

ええ

ええおさんはまだいらっしゃらないんですね

まだお若いでもんね

私たちは今育児相談をやっているんですけどやっ

ぱりあの、お母さんの考え方がずい分ちがうんで

ね、うろろろしているんですけどね

意外にあなたみたいなのそういう考え方の人は少ない

いんですよ

最近教育をちゃんと受けている方が多いので、

こう自分の考え方で自分の勉強で子育てをしたい

という人が結構多いみたいな感じなんです

ど、

同居ということがいいかどうかわかりませんが、やっぱり何らかの形で子どもを育てていく場合だったら、おばあちゃんとかいろんな年齢の方と一緒に接していきけるような環境のもとで育てていけば、きっといろんな経験もできていいんじゃないのかなと、今自分では思っているんですけど

ええそれにやっぱりしつげとか、そういう意味でも私たちの年齢がやっぱり自分の子どもを育てることになるとときには、言うのと、私たちの親の年齢層の人から忠告を受けるのでは同じことでもやっぱりちがってくるのではないのかなと——でもわかりません、全く想像の世界のことですから

ええ

そんなでもないですけど

ええ

は—

それもそのなんというか、いいっていうか、やっぱり自分の子どもだから自分で育てるという意気込みはまあいいということですけどね、やっぱり知識だけではないっていう気がちょっとするんですけどね、私の場合は母はおばあちゃんに任せきりっていう形、悪くいえばそういう形だったので、私がみてもやっぱりそれだと自分の子どもなのに、みたいなのところがなきにしもあらずだと思うから、任せきりっていうのもいけないと思うんですけども、ある程度バランスがとれていけば、おばあちゃんの見解も子どもがいろいろ聞いたりとか、叱られたりとかするのっていう、あれが大切なのではないかなみたいな、甘やかされるっていうのも、悪い意味だけじゃなくて親が甘やかすというのと、おばあちゃんが孫に接するっていうのはちょっと違うんじゃないかと思うんです。だから私の子どもっていう感じで、べったり一緒にということではなく一個人として子どもでもある意味では突き離してみたいとか——ま、どうしても二人だけでいると、なかなかそういうことができないと思うので、そういう意味ではいろんなところにつれていったりとかして、こう人と接して、人

ええ あっそうか

ええ もう一人の子どもを育てるっていうのはね、自分の思うようにならないことも多いから当事者になるととても大変みたいですけどね

ああそうですか

ええ

ええ

ええ もうそろそろ最後になっちゃいますよね
おばあちゃんのことはいろいろ伺ったから、お母さまに関してはいかがですか どんな風に思っていますか

4つありますね

ああそうですか

ええ

ああ今になって

小さいときはやはり淋しかったですか いらっしやらないと

見知りする子っていう感じじゃなくて、いろんなことを吸収できる子に育てていたらいいなと今、夢のようなことを考えたりしているんですけど、

なかなか理想と現実にはギャップがあって考えていることと全然別になっていくんじゃないかという怖さもあるんですけど

だからやっぱり自分の子っていうと、見えなくなっちゃうのではないかと 人の子だといろいろああ、あんなことしちゃだめと思っても、よく自分の子どもを叱ると怒ってしまう親がいるってきくとわかるような気もするし、そういうのもやっぱり考え――

やっぱり自分に子どもがいないから何ともそういう意味ではわからないんですけど

やっぱり何ていうか、自分が一応独立して家庭をもって始めというか母の偉さというのがわかったというか、今つくづく思うことで、えーと母も教師をして今も現役なんですけど、それと家庭と、いってみれば三役というか、妻と母と教師と主婦――

ええ

それをこなしてきたわけだからそれをとてもほんとは真似どころではなくて何ともすごいなっていう感じ

自分もそうしようと思った時期もあったんですけど

私は私でがんばっていかなくてはいけないなという感じで、でもやっぱり母を見て育った、おばあちゃんに育てられたんですけど、やっぱり母を当然見てきたんですけど、その背中を見ながら成長できたっていうことはとても感謝しなくちゃいけないなと今思います

ええ

そうですね、でもそんなに そんな風に思ったことはなかったような気がしますし、というか、やっぱりそれなりに子ども心にも仕事に対する姿勢とかそういうものをみて誇りに思ってた方がウエイ

えーじゃお母さんも立派だったんですね、そういうのを見せないっていうのはね

ああすてきなんです、やっぱりお母さんも
どうもありがとうございました。ちなみに年齢
と、もうご結婚していらっしゃるの、前のごきよ
うだを教えてくださいませんか
ああおひとりでしたの

トが重いというか、私にかまってくれないから仕事はやめてと思った経験はないんです、そういう意味では幸せなことだったと思うんです
そうですね、でもやっぱり教師としてのこの母と私の母親としての母とは、こうどうしてもちがうっていうのか、どうしても、いつも立派な母ではなくて、家に帰ったらけんかしたり泣いたり、疲れていたら怒ったりっていう母を見て、いろいろ思ったでしょうけど、人間なんだな、みたいなところがあって、飾らない子どもに対する接し方もやっぱり母なりに一しょうけんめいだったと思うし、立派でなかった、却ってそういう姿勢でなかったと思うから、よかったと思う。母から言わせると、後悔という仕事をもっているからかまってあげられなかった部分、家庭を犠牲にしてきた部分があるのでよくいますけど、そんな風に子どもから見ればとっていないので、その辺がやっぱりあの自分にきびしい人なのかなと、子どもは見ていたりして――

24歳でひとりでした